それを勉強とは考えない

ゴールデンウィークが明けて驚いたことがいくつかありました。

朝一番から、「〇〇くんおはよーー！！」という元気いっぱいの素晴らしい挨拶が教室の中でたくさん飛び交っていたこと。

授業の準備の速度が、以前に増してどんどん上がってきていること。

図工の授業などで「話の聞き方が本当に素晴らしくなったね」とリナ先生や岩本先生から褒めてもらえたとのこと。

大きな変化には感じない方もいるかもしれませんが、私はこうした一つ一つのことに大きな成長の手ごたえを感じています。

挨拶も準備の話の聞き方も、いずれも一見些細なことのようでものすごく重要な要素です。

これは、教師という職にある人ならば、まず間違いなく口をそろえて言うでしょう。

反対に、挨拶一つ交わすことができず、準備も一切に行うことができず、話も全然聞けない姿を思い浮かべれば、なぜそれだけ重要な要素なのかがイメージしやすいかもしれません。

それが、大型連休が明けて初日に見られたということに、私は腹の底からの喜びを感じました。

あまりに嬉しかったので、今日は祝杯をあげたいとすら思ったほどです。(笑)

さて、さらに本日は喜びを通り越して驚きを感じたことがありました。

朝一番に、私の所に自作の新聞を提出した子がいたのです。

聞くと、この前国語の時間に学習した「キャッチコピー」の内容を生かして、自分の探究テーマと関連させた新聞を作ってみたいと考えて取り組んでみたとの

こと。百聞は一見に如かずなので、まずはじっくり見てみましょう。

瀬戸SOLAN小学校　2023年5月8日 VOL.1

The Pirate Treasure Ship

Those who had conquered the ocean

盗んだアイテムで着飾る！

海賊ファッションのおきて

おきて①　三角帽子　（角が3つある帽子が18世紀ごろに流行した。帽子を大切にする海賊が多くいた。）

おきて②　指輪・宝石・ペンダント（てきをいかくするために高価な戦利品を身につけていた。）

おきて③　ダボダボな服　（シルクやサテンでできたえんび服を好んだが、全て盗んだものだったためサイズが合わずダボダボの服が多かった。）

おきて④　作業中はシンプルコーデ　（滑りやすい甲板上では、作業のしやすさを優先しキャンパス地のズボンやシャツを着ていた）

海賊の服はボロボロのイメージだったけど、盗んだアイテムでおしゃれを楽しんでいたことに驚いた！

海賊一のオシャレさん
ジョン・ラカム

当時、新しく作られたインド産のキャラコをいち早くファッションに取り入れた海賊。　そのため周りから「キャラコ・ジャック」と呼ばれた。クロスしたカトラスの上にガイコツをえがいた海賊旗のデザイン者でもある.

KT BOOK CLUB

『ONE PIECE』第89巻

ルフィーとカタクリがバチバチに戦っているところがかっこいい！

KT MOVIE BOX

『ドラえもんのび太の宝島』

海賊をたおす秘密道具が面白い！

KT FOOD COURT

KFCの骨つきチキン

海賊の様に骨つきチキンを手に持ってかぶりつく！　Yummy!

The Pirate Treasure Ship 編集長
谷口航成です。海賊が大好きな瀬戸SOLAN小学校4年生です。これからどんどん海賊に関する情報をお届けします！

参考図書：山田吉彦監修 2021 『新世界　海賊の作法』（株）G.B.

これを、自分で考えて作ってみたのだと思って、私はまた驚きました。
何が素晴らしいのかと言えば、いくつも答えが浮かんできますが、取り分け感動したのは「自分でやりたい・調べたい」と思って新聞を作り始めたことです。
ふと、天才物理学者アインシュタインの言葉が浮かびました。

「学べば学ぶほど、自分が何も知らなかったことに気づく。 気づけば気づくほど、また学びたくなる」

ここでは、自分が知らなかったことをどんどんわかるようになっていくことへの歓びが感じられる言葉です。
万有引力の法則を確立したニュートンの言葉も、実は似ています。

「年がら年中、そのことばかりを考えていただけです」

つまり、彼らは「自分のやっていることが面白くて夢中になっていた」というわけです。
ちなみに、発明王エジソンはもっとストレートにわかりやすく表現しています。

「楽しみながら学ぶのがベストだ」

科学者たちはみんな同じように言っていますね。
みんな 「楽しみながら学んでいる」のです。
そして、この状態のことを私は「本物の学び」と呼んでいます。
「学ぶ」ことは、決して苦痛を伴う行為ではありません。
本来、 とても楽しくて能動的に取り組めることで、更に言えばすごく贅沢な営みであるといえます。
科学者だけでなく、哲学者（プラトン）の言葉も引いてみましょう。

「無理に強いられた学習というものは、何ひとつ魂のなかに残りはしない」

「脳」ではなくて「魂」の中に残らないというところに、不思議な納得感を覚える言葉です。
ちなみに「勉強」という言葉の語源は「古代中国語で、励むこと、また無理強いすること、現代中国語も無理強いの意です。
江戸時代には、商人が物の値段を「がんばって値引きする」という意味で「勉強」という言葉を使っていました。
現在でも、その名残があります。
それが明治時代以降、学問や技芸を学ぶ、 今の学習の意味としても使われるようになったのだと言われています。
私たちが当たり前のように「学習」の意味合いで使うようになった「勉強」という言葉の使い方は、まだ百年ほどの歴史しかないのです。

語源由来辞典には、「勉強」の意味が次のように載っていました。

勉強は「勉め強いる」と書くように、本来は気が進まないことを仕方なくする意味の言葉であった。

商人が頑張って値引きをする意味の「勉強」は、江戸時代から使われており、学問や技芸を学ぶ意味の「勉強」よりも古い。

明治以降、知識を得るために努力することが美徳とされるようになったことから、「勉強」は「学習」とほぼ同じ意味で使われるようになり、一般的に「学習」を意味するようになった。

「勉強」のニュアンスは「気が進まないことを耐えて行う」です。

ここには、本来の学びに含まれている「熱中や没頭に伴う自己の魂の向上を図ることの歓び」が消されてしまっています。

では、それ以前は「勉強」の代わりに、どんな言葉を使っていたのでしょうか。

そう、「学問」です。「問う」ことと「学び」です。

だから、明治五年(一八七二年)二月に刊行された福澤諭吉の書は『勉強のすゝめ』ではなく、「学問のすゝめ』というタイトルがつけられているわけです。

話を先ほどの新聞に戻すと、谷口くんが行ったことが勉強ではなくて学問であることがきっと分かるのではないかと思います。

楽しみながら、自分から進んで行う学習は、本当に楽しくて贅沢で豊かな営みです。

そんな瞬間の芽吹きが教室で少しずつ始まったことに、私はこれまた大きな幸福感を覚えました。

ちなみに、以前読んだ本にはこんなキャッチコピーが載っていました。

もっと知りたいと思う子は、それを勉強とは考えない

子どもたちの、「もっと知りたい」「もっと学びたい」という萌芽の瞬間を、これからも楽しみに待ち続けたいと思います。

☆↓読者ページはこちらから↓☆ご意見ご感想など気軽にお寄せください

https://docs.google.com/forms/d/1qqf4cPLcjpcWaimWdu-6lFM73JahODYK4ROldg7jLxM/edit